

飼料用米（玄米）は 採卵鶏飼料のトウモロコシを全量代替できる

我が国の畜産は輸入飼料への依存度が高く、国際飼料価格の影響を受けやすいので、輸入飼料を国産飼料に置き換えることで、国内における畜産物の安定供給を確保する必要があります。そこで、飼料の自給率向上に向け増産が推進されている飼料用米を採卵鶏飼料に活用するため、国内に普及している主要な採卵鶏2鶏種に対し、配合飼料中のトウモロコシを飼料用米で代替した飼料を給与し、生産性及び鶏卵品質への影響について調査しました。

☆ 技術の概要

1. 採卵鶏飼料に約60%配合されているトウモロコシを飼料用米（無粉碎）で全量代替しても、生産性には影響しません。
2. 飼料用米の配合割合が増えるとともに、卵黄色が橙色から淡い黄色となり、カラーファンの値も低下します。なお、卵殻強度やハウユニットには影響は認められません。
3. 飼料用米を給与すると、卵黄の脂肪酸組成が変化し、リノール酸が減りオレイン酸が増加します。多価不飽和脂肪酸n-6 / n-3比も米0%では12:1程度なのが、60%配合すると8:1程度に改善します。
4. 飼料用米給与卵の食味は、味覚センサー（味覚認識装置）による評価でも変化が確認でき、トウモロコシ主体飼料の卵に比べさっぱりした味になります。これは、脂肪酸組成の変化が関与しているためと考えられます。

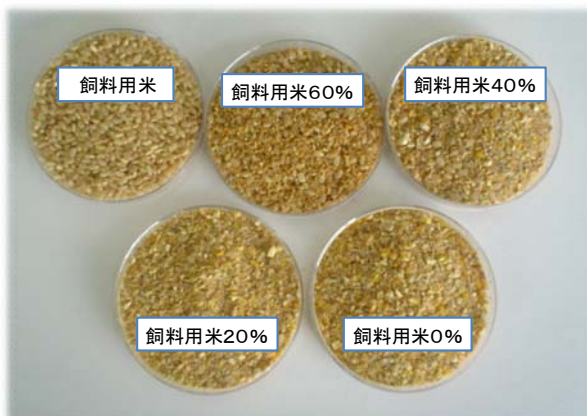


写真1：試験に使用した飼料



写真2：飼料用米の配合割合と卵黄色

☆ 活用面での留意点

飼料用米は品種や栽培条件により栄養成分が異なるので、必要に応じて他の飼料原料で微調整し、成分（CP、ME、Ca、P等）を同等とします。詳細は、群馬県畜産試験場中小家畜研究係（TEL：027-288-2222）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）